

今週のメニュー

■トピックス

- ◇新和環境(株)の「プラボー」
—廃塩ビ壁紙を敷板に再生—

新和環境株式会社 代表取締役社長 近藤 亮介
(一般社団法人日本壁装協会 環境顧問)

■随想

- ◇ブルキナファソ旅行記(4) —ブルキナごはん— (終)

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

- ◇新和環境(株)の「プラボー」
—廃塩ビ壁紙を敷板に再生—

新和環境株式会社 代表取締役社長 近藤 亮介
(一般社団法人日本壁装協会 環境顧問)

1. 「プラボー」開発の経緯

新和環境では、2011年9月から、「廃塩ビ壁紙」を原料とした「再生塩ビ樹脂コンパウンド製造事業」に着手しました。既に1年以上が経過し、特許技術の“叩解分離機”を中核とした塩ビ樹脂とパルプの分離設備の精度や安定性、製造した「再生塩ビ樹脂コンパウンド」、「パルプ粉」の品質や安定した出荷先の確保など、大きな課題は概ねクリアすることができました。

本件事業は、関連会社の「(株)新和総合研究所」で、パイロットプラントの位置付けで、廃壁紙の品質、数量を限定して、慎重に進めてきましたが、本格リサイクル事業化の目処がたつたため、現在、新和環境の埼玉工場において、本格的な設備投資を計画中です。将来的には、全国で年間10万トン程度発生している廃塩ビ壁紙を、広く受け入れることができる体制構築を目指しています。

しかしながら、廃塩ビ壁紙の受入の“間口”を広げていくと、リフォーム工事で大量に発生する「剥がし材」、「施工端材」も受け入れなければなりません。それらには、「糊」や、微量とはいえダスト類の混入が避けられないため、現在のメインの利用用途となっていて、品質基準の厳しい「塩ビ系床材の原料」として使えない「B級品」の比率が上がってくることを想定しておく必要があります。

このような見通しの中で、塩ビ工業・環境協会(VEC)に、利用用途開拓について相談していたところ、「(株)LINK PLANET」社が製造している「プラネットシード」という製品の原料に使えるのではないかとという情報提供を受けることができました。

「プラネットシード」という商品は、国内の塩ビ製電線被覆の廃材を100%使用して、熱プレス成形により製造された敷板ですが、今回の新開発敷板「プラボー」は、「電線被覆由来樹脂70%」、「壁紙由来樹脂30%」の原料配合率で製造されたものです。(写真1)



(写真1) “できたて”のプラボー

2. 「プラボー」の用途と特徴

「プラボー」、「プラネットシード」は、工事現場などで使用される「敷鉄板」や「ゴムマット」と同様の用途で利用されています。(写真2)

「プラボー」の特徴をまとめると、以下の通りです。

①「軽量」であること。

→ 1枚約45kg(1250ミリ×2000ミリ×13ミリ)で、鉄板に比べて軽量であり、作業員2名で容易に設置撤去。大型車1台分の「プラボー」で、約1,000平米の養生が可能。

②「耐久性」が高いこと。

→ 塩ビ樹脂製ゆえに、ゴムマットと比較して圧倒的に耐久性が高く、耐用年数は「5年以上」。暴露試験では「20年以上の経年変化なし」

③「優しい」こと。

→ 弾性、柔軟性に優れ、下地の凹凸や芝生の上でも効果を発揮。鉄板とは違い、車両通行による振動や金属音などの騒音が低減されます。

④「景観」がよいこと。

→ 「白い壁紙色」が活かされて、「プラボー」の色はグレー。黒いゴムマットと比べると、「現場」が明るくなります。

⑤「環境」によいこと。

→ なんといっても、「再生塩ビ樹脂原料100%」



(写真2)

区立中学校の改修工事での使用例

3. 記念すべき「初採用」

“本設”の建設資材と違い、“仮設材”のありがたいところは、ユーザーから、比較的気軽に、「ためしに使ってみよう」と考えていただけるところです。「プラボー」の第1弾製品ができあがった直後、豊島区の立教中学校・高校の学園祭で、レンタル利用されることになり、その様子が複数の[業界紙の取材を受け、掲載されました](#)。

記事によると、立教の担当者のコメントとして、「敷設した場所は学園祭会場の模擬店・イベント会場として使用する。火や汚れにも強く、学生でも敷設可能なため、用途にマッチする部分が多く、今後も採用していきたい」とあります。「プラボー」の“意図”がユーザーに伝わり、とてもありがたく思っています。(写真3~5)



(写真3)
“野球部”による敷設作業



(写真4)
グラウンドの凹凸を吸収



(写真5)
学園祭当日、模擬店の様子

4. 新和環境の事業展開

新和環境では、現在、「プラボー」を埼玉工場内に在庫し、産廃の小口巡回回収車両を活用し、プラボーのレンタル、販売に対応しています。“空荷”の車両にプラボーを積載し、プラボーを納品後、産廃を積載することで、「産廃業者ならではのコストダウン」を図ることができます。積載する産廃が“廃壁紙”であれば、なんとも美しい“循環型リサイクル”です。

* 問い合わせ先：新和環境(株)（電話 03-3208-5047）

■ 随想

◇ブルキナファソ旅行記（4）－ブルキナごはん－（終）

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

今回はブルキナファソだけでなくベナンも訪問したため、ブルキナファソ編はこれが最終回となります。

日本が誇るファーストフードは「丼」。親子丼、かつ丼、天丼など、色々な種類があり、美味しいですね (*^_^*)

ブルキナファソにも「丼」があります。他のアフリカの国でも似たような料理はありますが、一つの皿（実際には洗面器が多い）にご飯とおかずを“それぞれ”入れたものです。ブルキナファソも皿にご飯とおかずを入れますが、なぜかご飯の“上”におかずを載せた“丼”です。

値段によってかなり内容は異なりますが、安いものでは、お米の上にミートソースマカロニを載せたもの（ほとんど炭水化物？）。ご飯の上に煮た豆や野菜を載せたもの（お米版クスクス？）。ちょっと値段が上がると干物を焼くかフライにしたものが上に載ります。

また、日本で言う“焼き鳥丼”のように肉の串焼きをご飯の上に載せたものもありました。

このように“丼”文化のあるブルキナファソで、なんと、日本が誇る“丼”料理、「牛丼」屋さんがあるのです。

店の名前は「WAGAYA」。素直に読むと「我が家」。はい、経営者は日本人です。

ブルキナファソに在住し、ボランティアで孤児院建設などをされている飯田さんという方が2011年末にオープンしたお店です。ブルキナファソの人に日本の「牛丼」は受け入れられるのだろうか、WAGAYA に行ってみました。

あれ？ お客さんがいない。

やっぱり、日本の「牛丼」はブルキナファソの人に受け入れられなかったのかな？

取り敢えずお店に入り「牛丼ください」と日本語で言ってみました。すると、「売り切れました」と日本語の返事が。どうやら、受け入れられているらしい \(\wedge\wedge)/

お店に飯田さんはおらず（日本に一時帰国中でした）、オリビアさんというブルキナファソの女性が店番をしていました。オリビアさんは日本に8年ほど住んでいたことがあり、日本語はペラペラ。日本ではお弁当屋さんでもアルバイトをしていたこともあり、接客もお手のもの。おまけに「吉野家の牛丼大好き！」という牛丼好き。まさに、WAGAYA の店員さんにはぴったりの方でした。

もともと、ブルキナファソの人はビーフが大好き。価格も非常に安く、どこでも入手できます。料理方法もステーキや串焼きだけでなく、煮込み料理などいろいろなものがあるため「牛丼」も比較的、抵抗がなく受け入れられたそうです。

結局、オリビアさんが「スパゲッティ作ってあげようか」と言われたので、ミートソーススパゲッティを頂戴しました。ブルキナ「牛丼」食べたかったなあ。

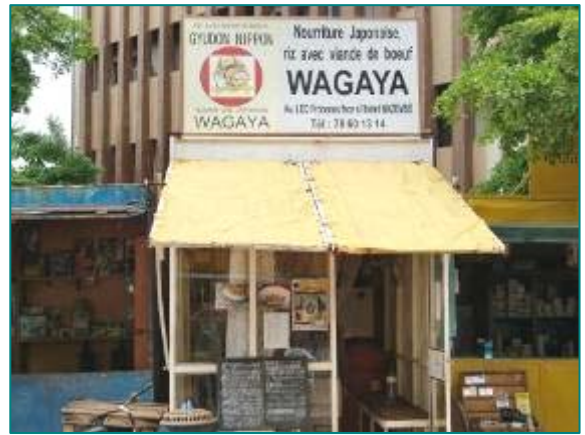
さて、ここからはブルキナファソいろいろです

コーヒー

アフリカはコーヒーの産地が多いので、美味しいコーヒーが飲めると思われている方も多いようです。もちろん、Cafe など専門店に行けば飲むことはできますが、普通はコーヒーを頼むとネスカフェ（市場のほとんどをネスカフェが占めているので、インスタントコーヒーの意味として、中東を含むかなり広い範囲で使われています）が出てきます。

フランスパン

フランスの植民地だったため、フランスパンやクロワッサンはどこでも売っています。クロワッサンは美味しいのですが、なぜかフランスパンは異常に硬くパサパサしており、



WAGAYA のオリビアさん（右側）とお店に遊びに来ていた姪御さん（左側）。ブルキナファソの若い人も写真を撮るとき (^_^)v ってするんですね (^0^)

飲み物と一緒に飲み下さないと食べることが困難です。どのお店で出されたフランスパンも同様だったので、これがブルキナファソの標準なようです。

マギーブイヨン

マリ共和国でもよく見かけましたが、ブルキナファソではほとんどの料理に使われています。日本の醤油のようなものでしょうか？

国連とJICA（国際協力機構）

経済的にあまり豊かではないため、ブルキナファソでは多くの国連援助機関が活動しています。また、日本も海外青年協力隊をはじめ多数の JICA 職員がブルキナファソで活動しています。アフリカでは国連援助機関の車両はよく見かけますが、JICA のマークを付けた車両をこれほど多く見た国はブルキナファソが初めてです。

国連と言えば、昨年訪問した隣のマリ共和国では一部地域で政情不安となりマリ政府のコントロールが及ばない状況となっています。このため、多くの人々がブルキナファソをはじめとする隣国に難民として避難をしてくれています。

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）ではブルキナファソに難民キャンプを設置して難民の受け入れを行っていますが、首都の Ouagadougou にも多数の難民が流入しています。ある関係から、Ouagadougou の街中を国連マークをつけて歩いていたら、UNHCR の難民認定証（これがあると国連の援助が受けられると共に、パスポートや入国ビザがなくても第三国での滞在が許されます）を所持した多くの難民の方から声を掛けられました。

詳しくは確認していませんが、トータルとしては、かなりの数の難民がブルキナファソにおられるようです。

写真

マリ共和国では写真と撮影されることを“嫌う”人が多かったのですが、ブルキナファソでは“プライド”が高いためか、普段着での撮影を嫌がる方が多いようです。写真を撮っていいかと尋ねると（許可なく写真撮影を行うと、大きなトラブルになります）、正装ならばいいけど、普段着ではダメと言われることが多かったです。

また、政府関係機関、軍の施設や軍人、警察の施設や警察官、駅や空港などの主要交通機関の撮影は禁じられているため、街中で写真を撮ることが困難です。

敬老精神と母子保護

お年寄りと赤ちゃんを連れた母親は優先されます。入国審査でも、銀行でも、どんなに長い列ができていてもお年寄りや赤ちゃんを連れた母親は一番先頭に案内されます。並んでいる人は、嫌な顔一つせず、ニコニコしながら見えています。

次回はベナン共和国からお送りします。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

最近は、急須の使い方を知らない高校生が多いそうです。(そのまま、直火に掛けようとする人もいるとか。) 原因は、家庭でもペットボトルのお茶を飲むようになったことのようにです。私自信は、ペットボトルのお茶を飲むことに抵抗はありませんが、家でお茶を淹れる時には急須を使っていて、微妙に昭和を引きずっています。年賀状を出す人も減って来ているとのことですが、ちょっと面倒でも残しておきたいものって有りますね。(漠)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp